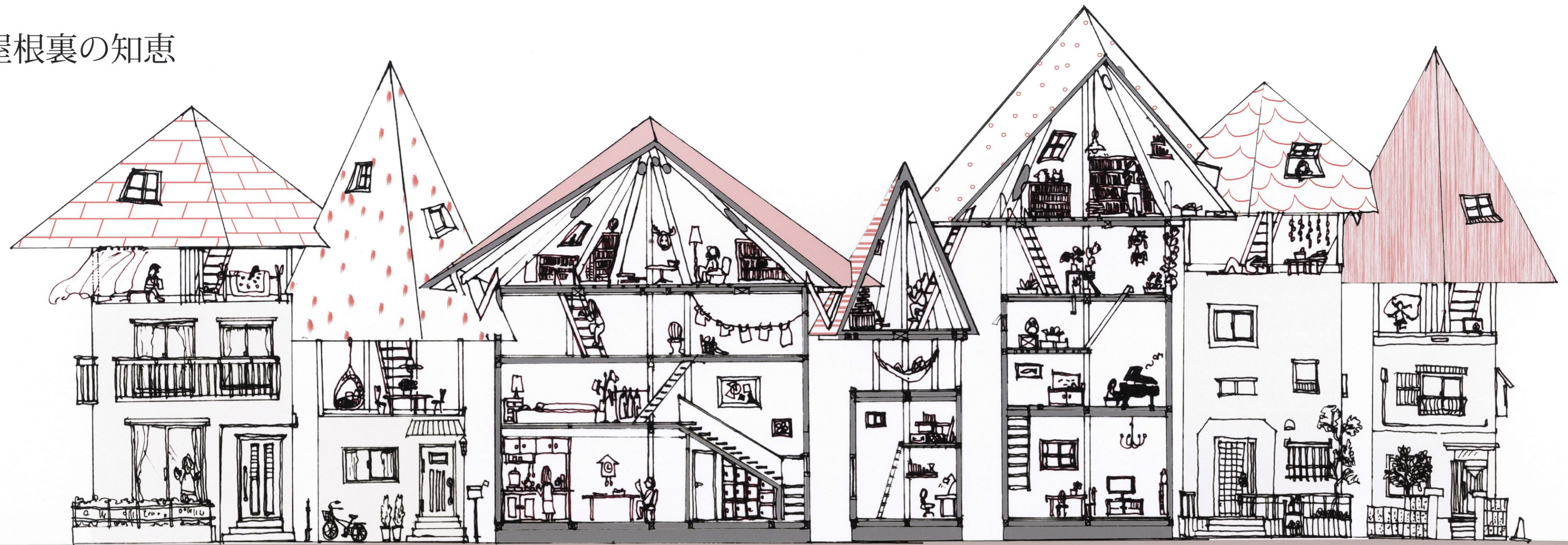


屋根裏の知恵

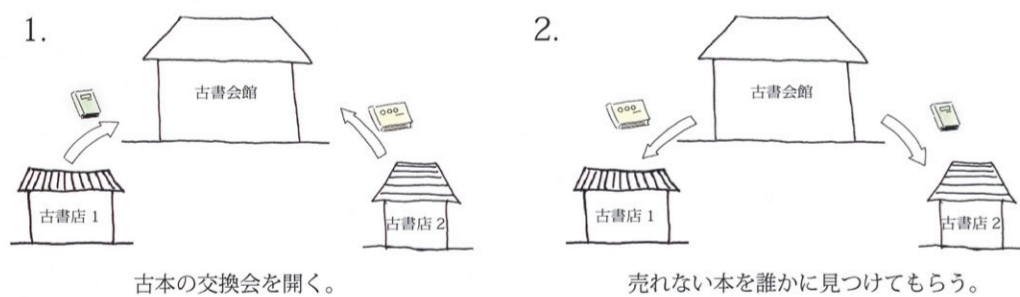


コンセプト

本を介した共有の場。それはもしかすると、無駄な空間。

ひとりでは分らなかった、何か新しい価値が生まれる可能性。
そのためにコミュニティはあるのではないだろうか。

【古書店のしくみ】

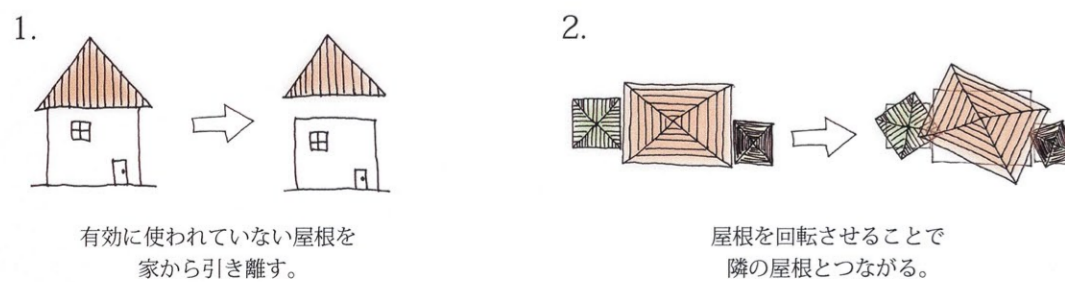


古書店の多く集まる場所には共同体がある。これは、自立型共生のしくみだろう。彼らは古本の交換会を開き、自分たちの店の売れない本を誰かに見つけてもらう。それぞれのお店は完結しながらも、自分たちの持て余していた本に新しい価値を生む。

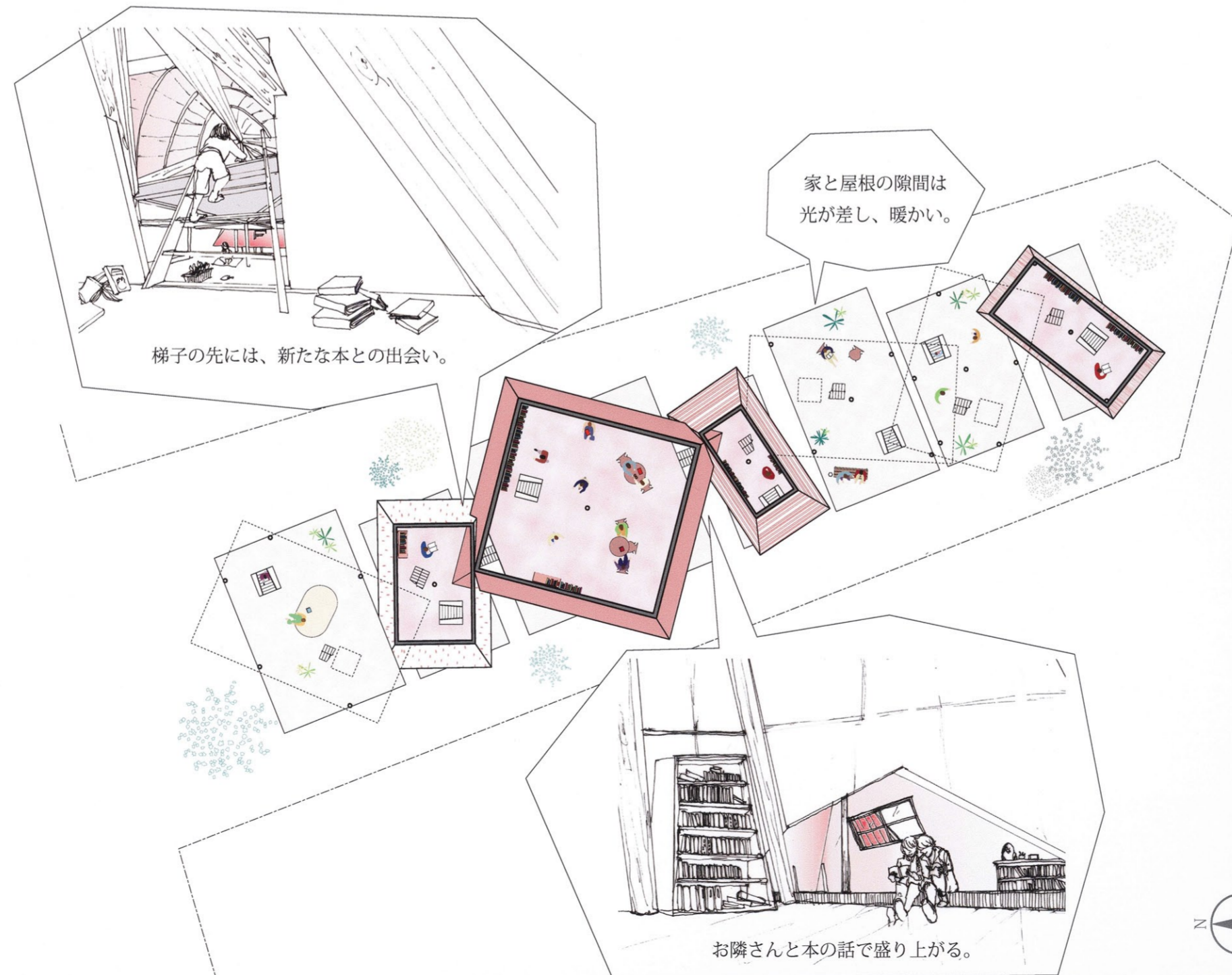
本が好きな人々が一緒に暮らせる家を考える。
生活の余剰で新しい本と出会い、生活の質が少し変わるような場所。
隣人と、家族と、ひとりひとりと、本を介し、住宅の中で新しい繋がりが方々。

ダイアグラム

木の家で、無駄な場所は屋根ではないか？



屋根裏の使い方



共同体の風景

以前まで整理していた家々の屋根は、重なり合うことでひとつつながりの風景をつくる。
住民によって集められた本。
つながった屋根はまちの小さな図書館。
木の家は、大きな屋根を持っている。

